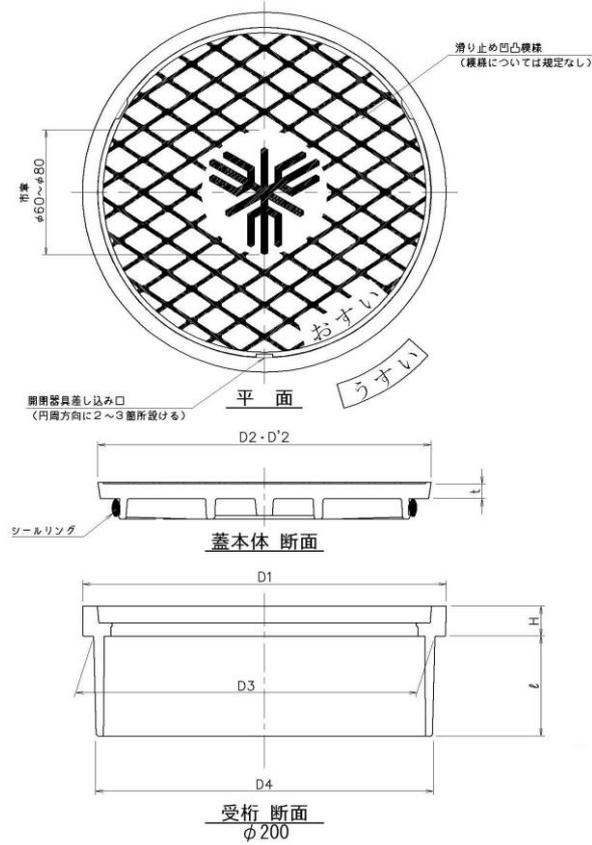


塩ビ製汚水柵用塩ビ蓋詳細図



硬質塩化ビニル製柵 底付詳細図

汚水柵 90度三方向合流

差し口形

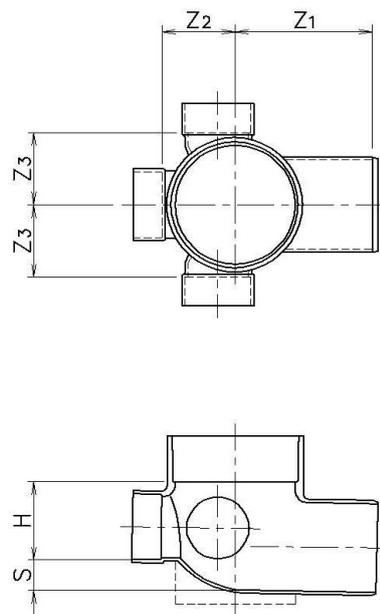
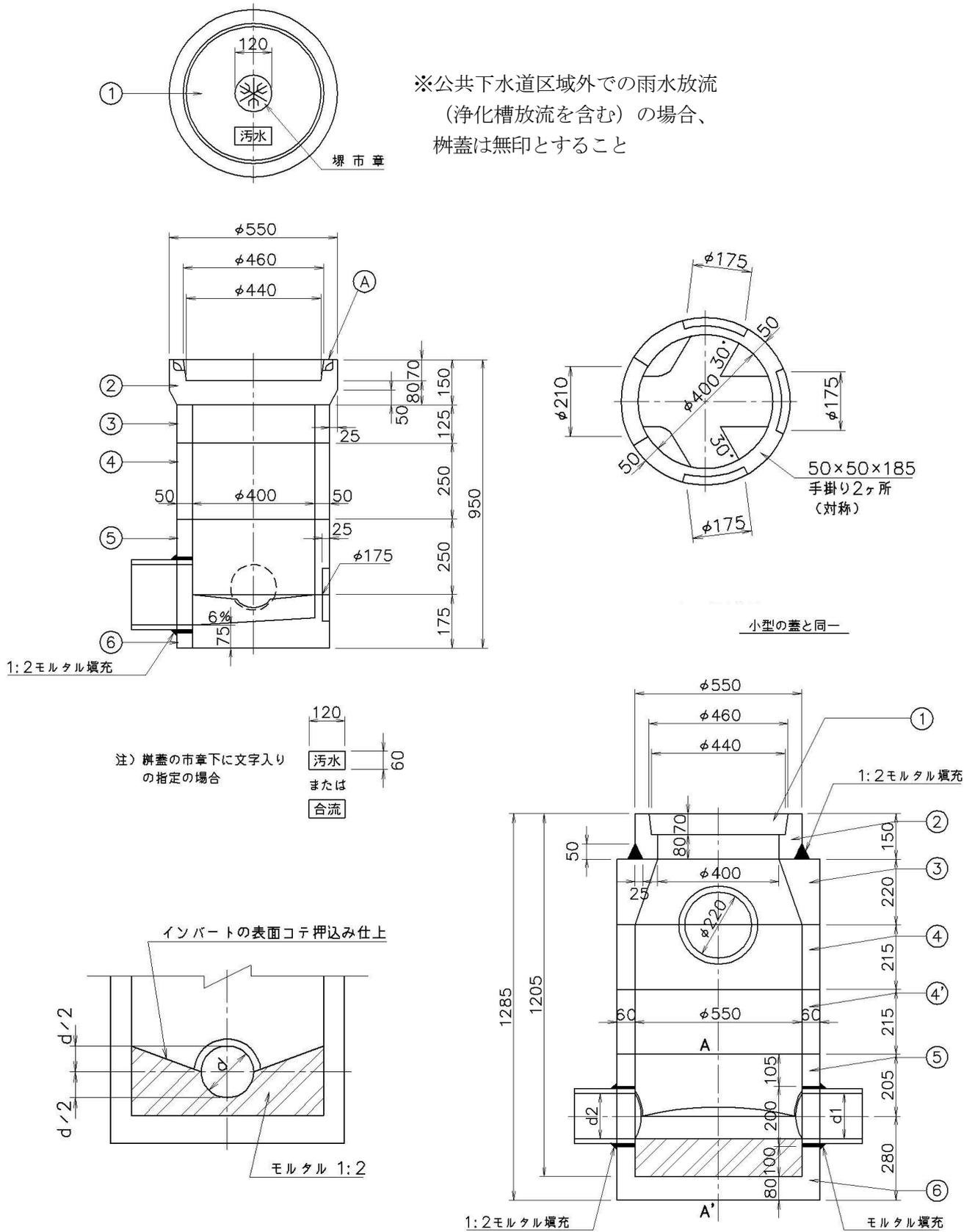


図 2-2 2

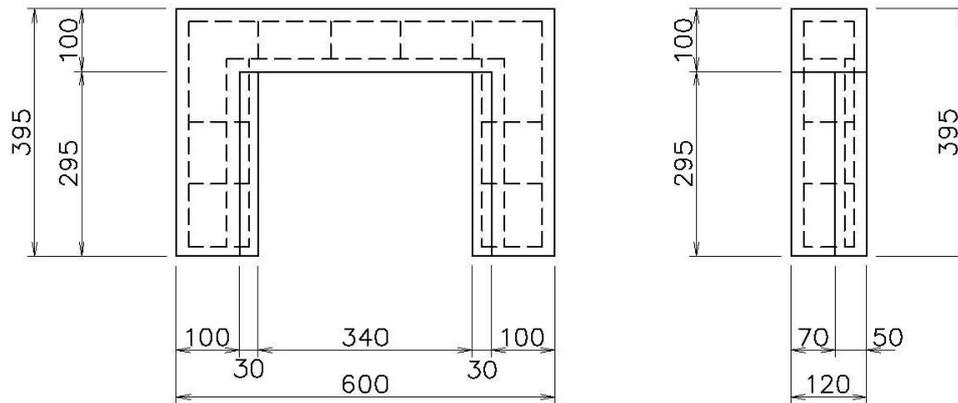
汚水桝設置図 (φ400・φ550)



歩道用雨水桝受枠及び蓋

受 枠

参考重量  
: 32kg

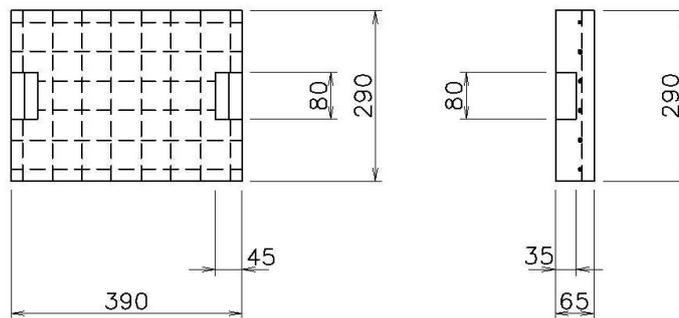


使用鉄筋

主筋  $\phi 5$  m/m  
副筋  $\phi 4$  m/m

蓋 (プレート巻)

参考重量  
: 18kg

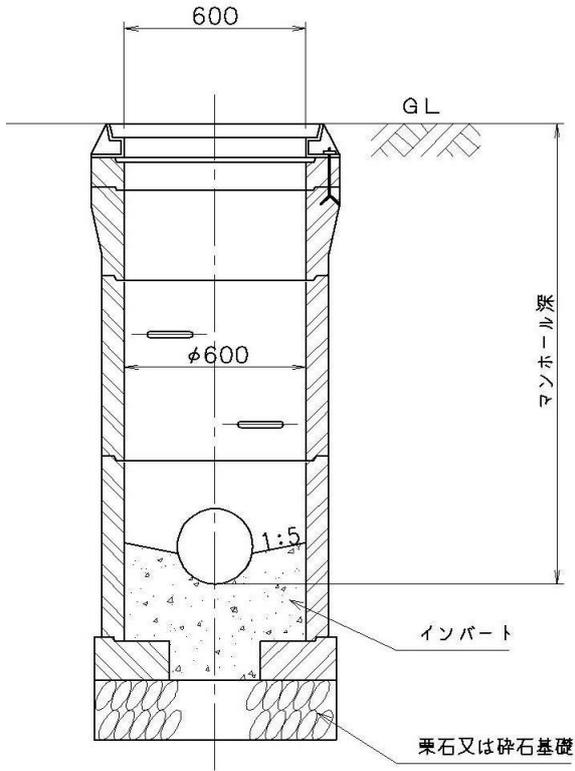


使用材料

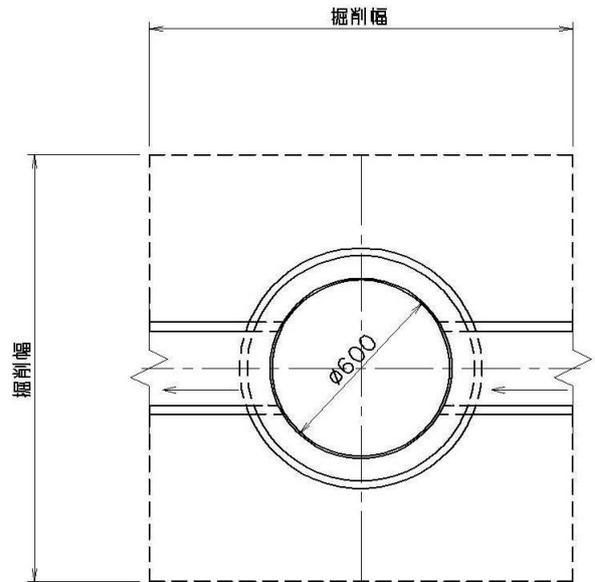
鉄筋  $\phi 6$  m/m  
P.L. 3.2 m/m

特殊組立マンホール参考図 (内径 600mm円形)

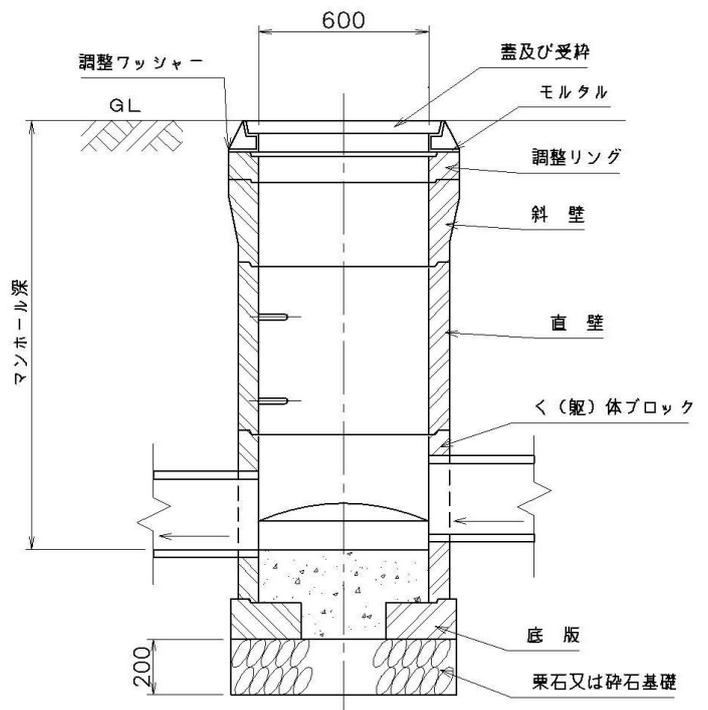
横断面図



平面図

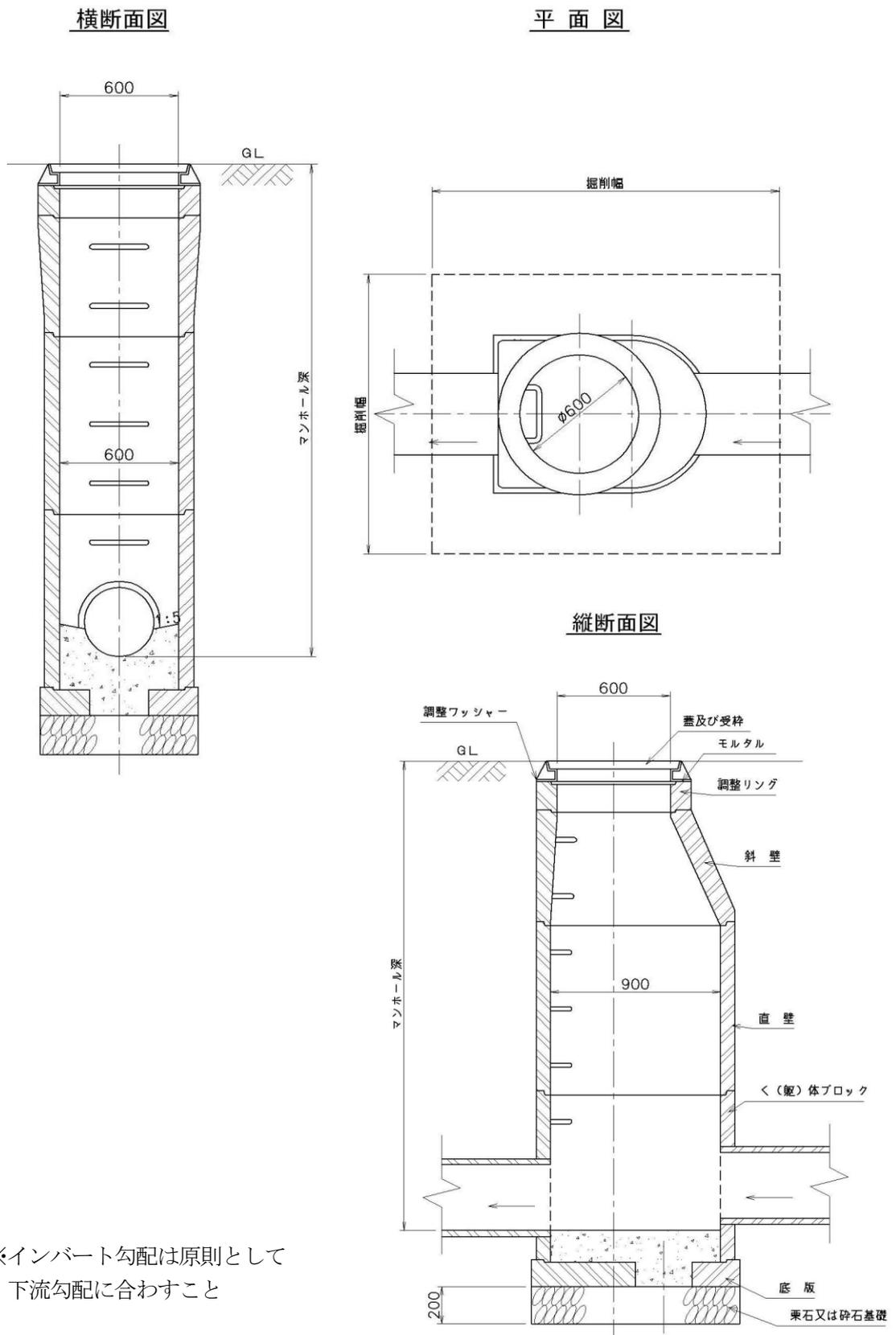


縦断面図



※インバート勾配は原則として  
下流勾配に合やすこと

楕円組立マンホール参考図 (内寸法 600×900mm 方円形・小判形)

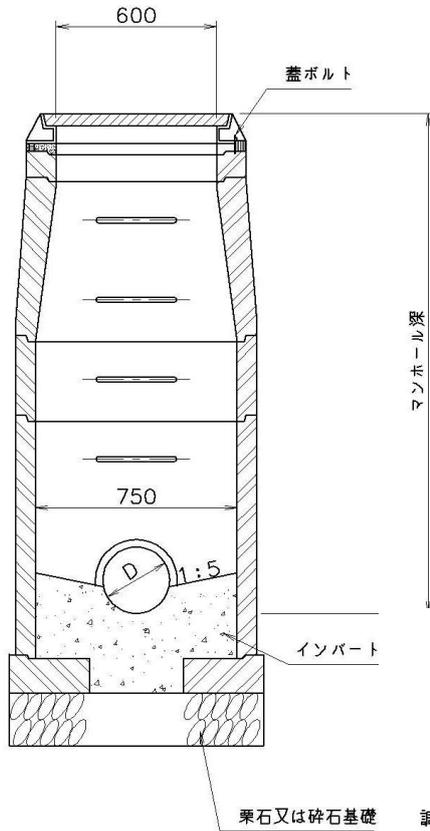


※インバート勾配は原則として  
下流勾配に合わせること

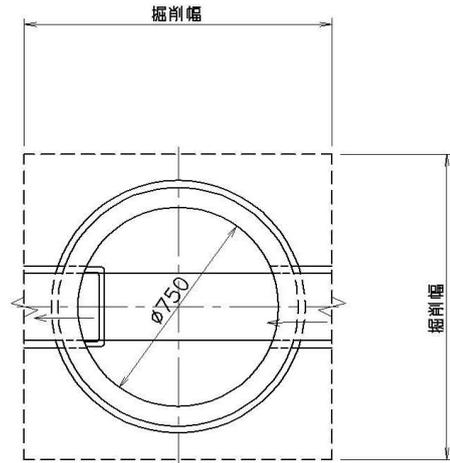
図2-26

0号組立マンホール参考図 (内径750mm円形)

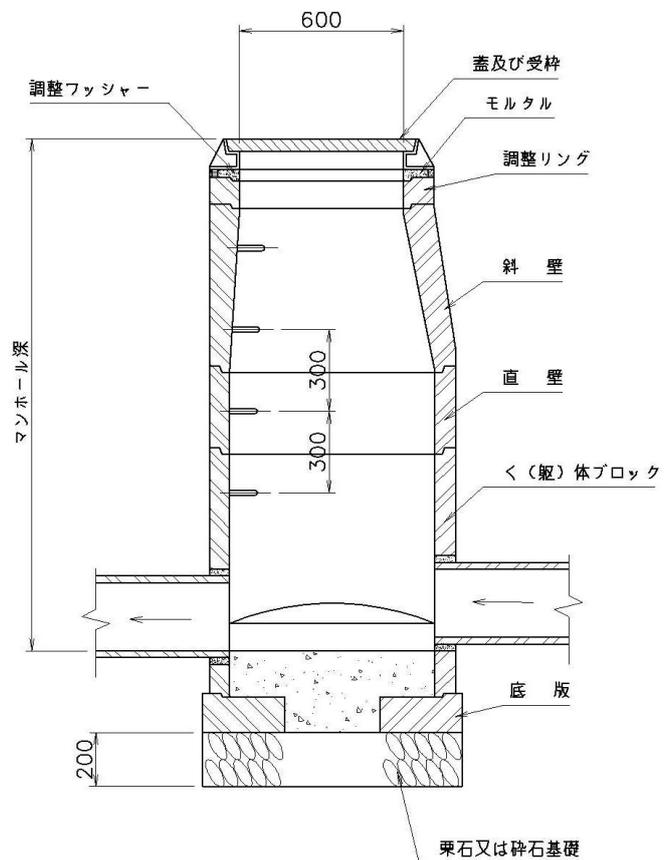
横断面図



平面図



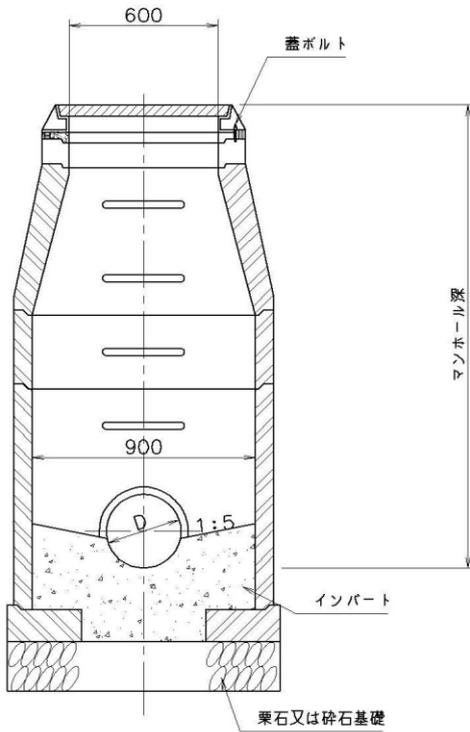
縦断面図



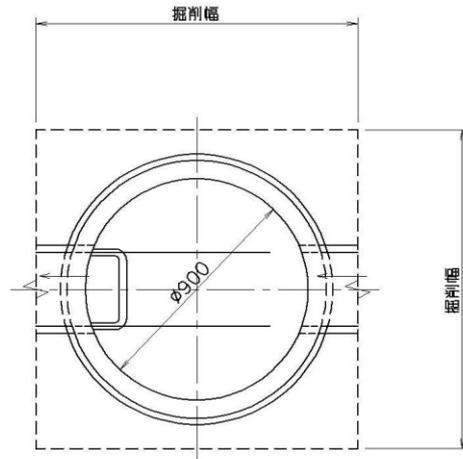
※インバート勾配は原則として  
下流勾配に合やすこと

1号組立マンホール参考図 (内径900mm円形)

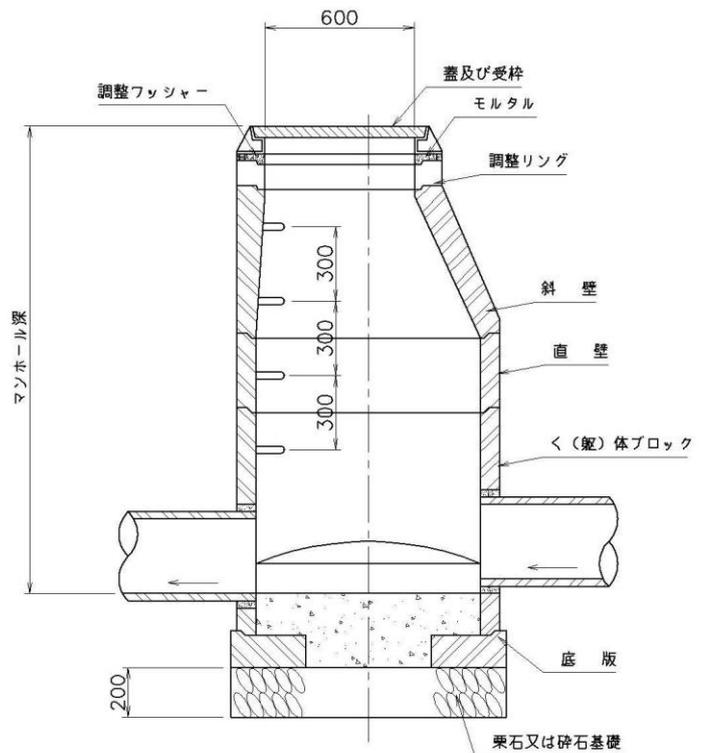
横断面図



平面図



縦断面図

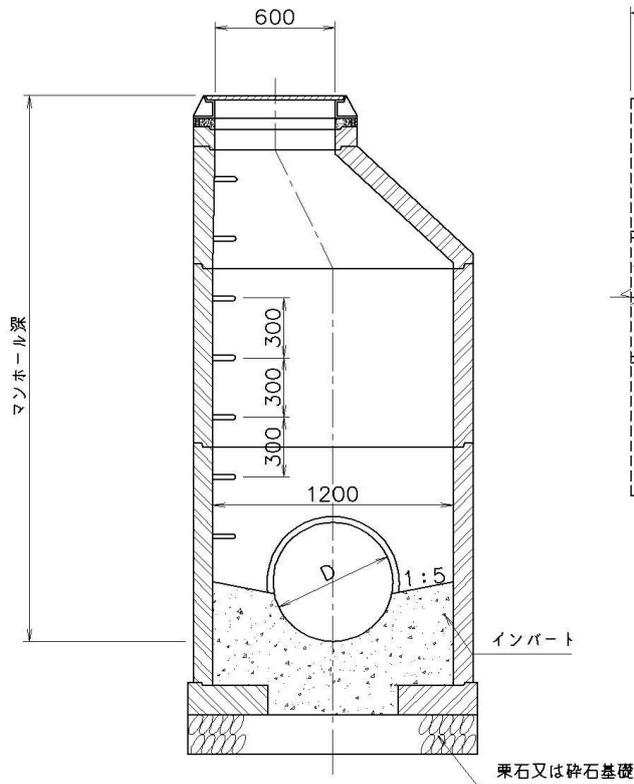


※インバート勾配は原則として  
下流勾配に合わせること

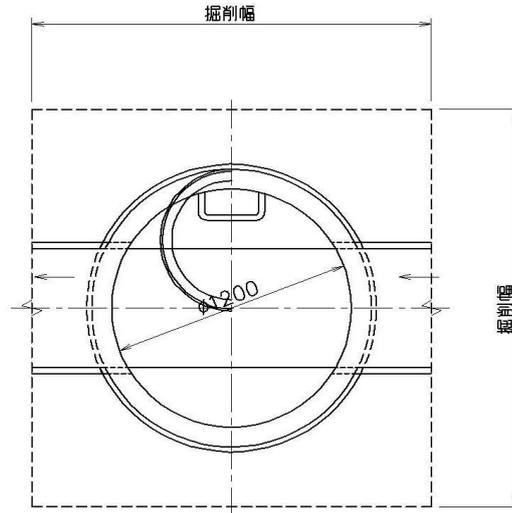
図2-28

2号組立マンホール参考図 (内径1200mm円形)

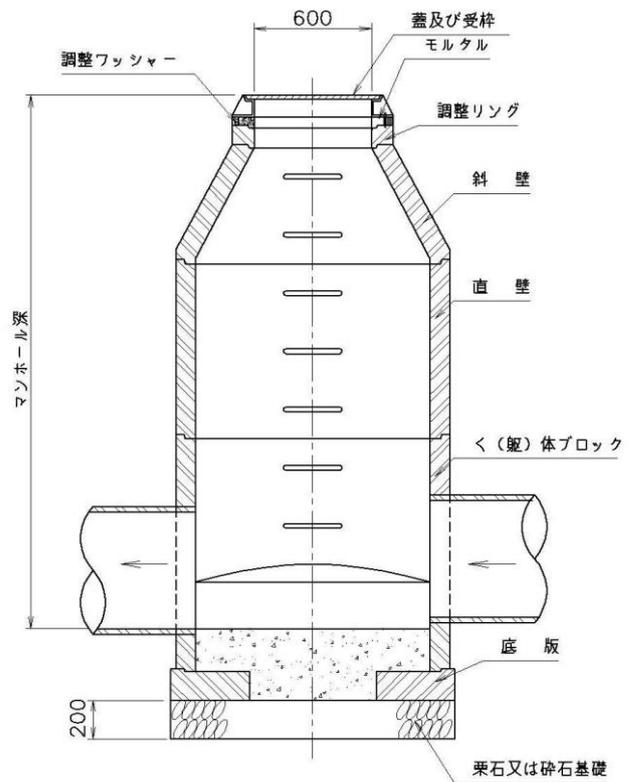
横断面図



平面図

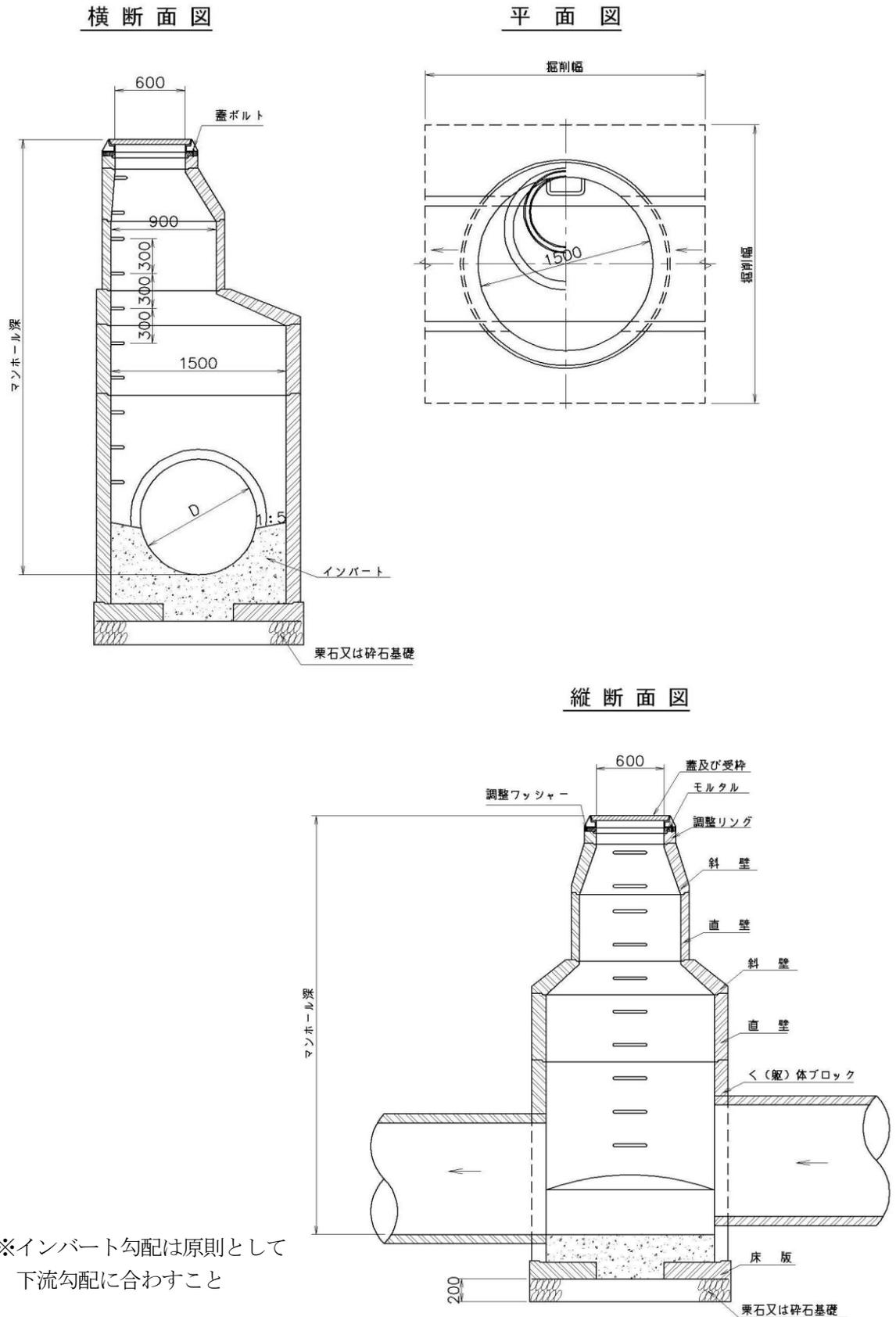


縦断面図



※インバート勾配は原則として  
下流勾配に合やすこと

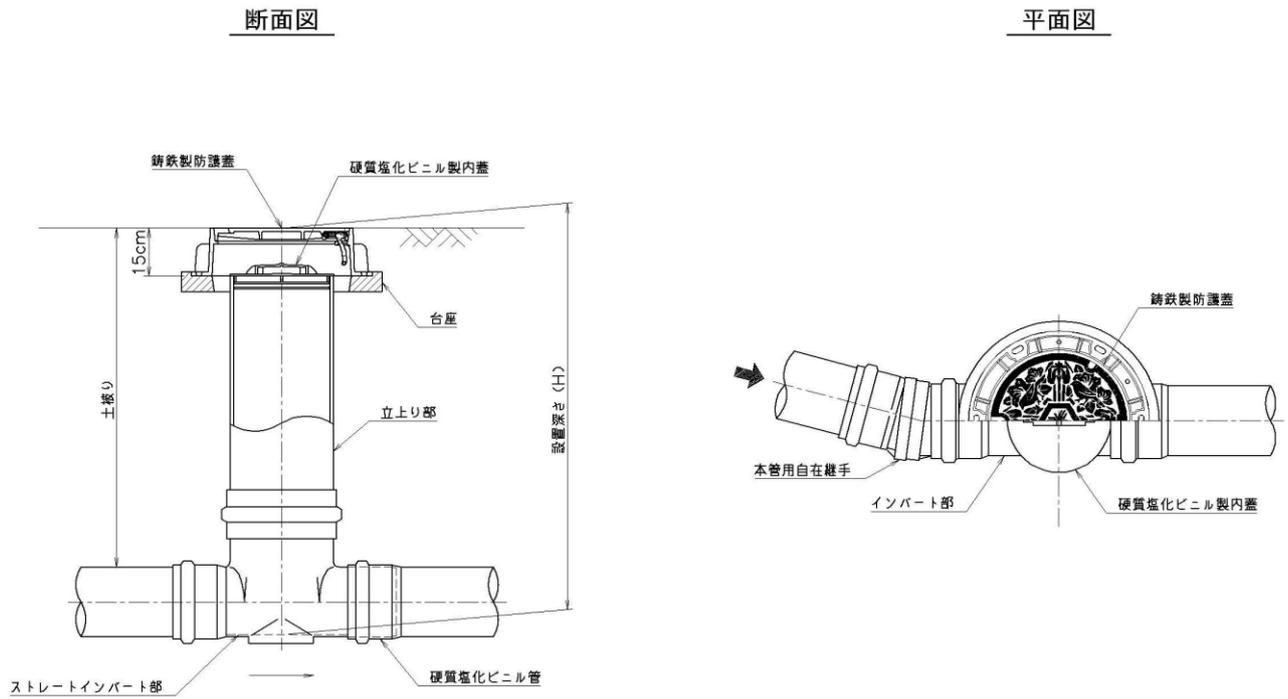
3号組立マンホール参考図 (内径150mm 円形)



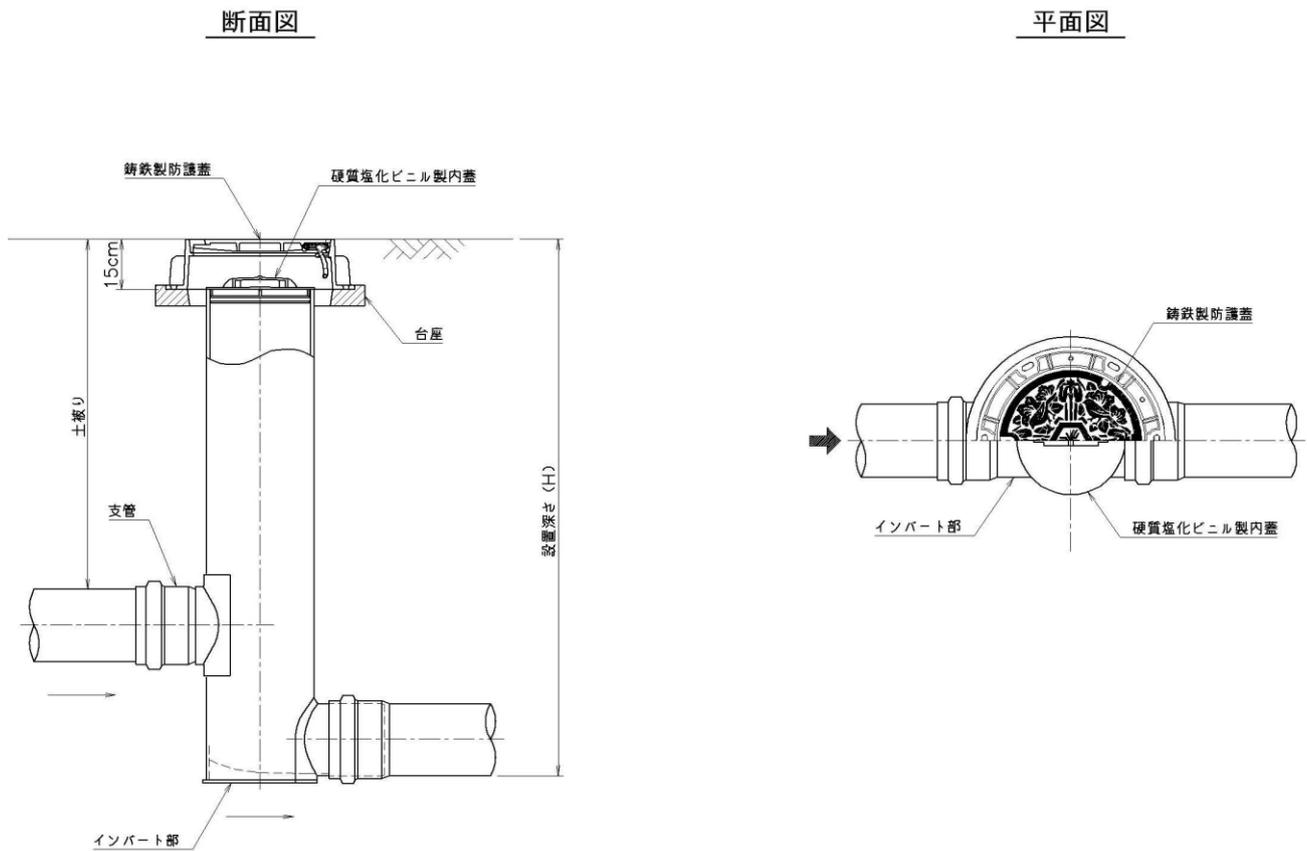
※インバート勾配は原則として  
下流勾配に合合わせること

図2-30

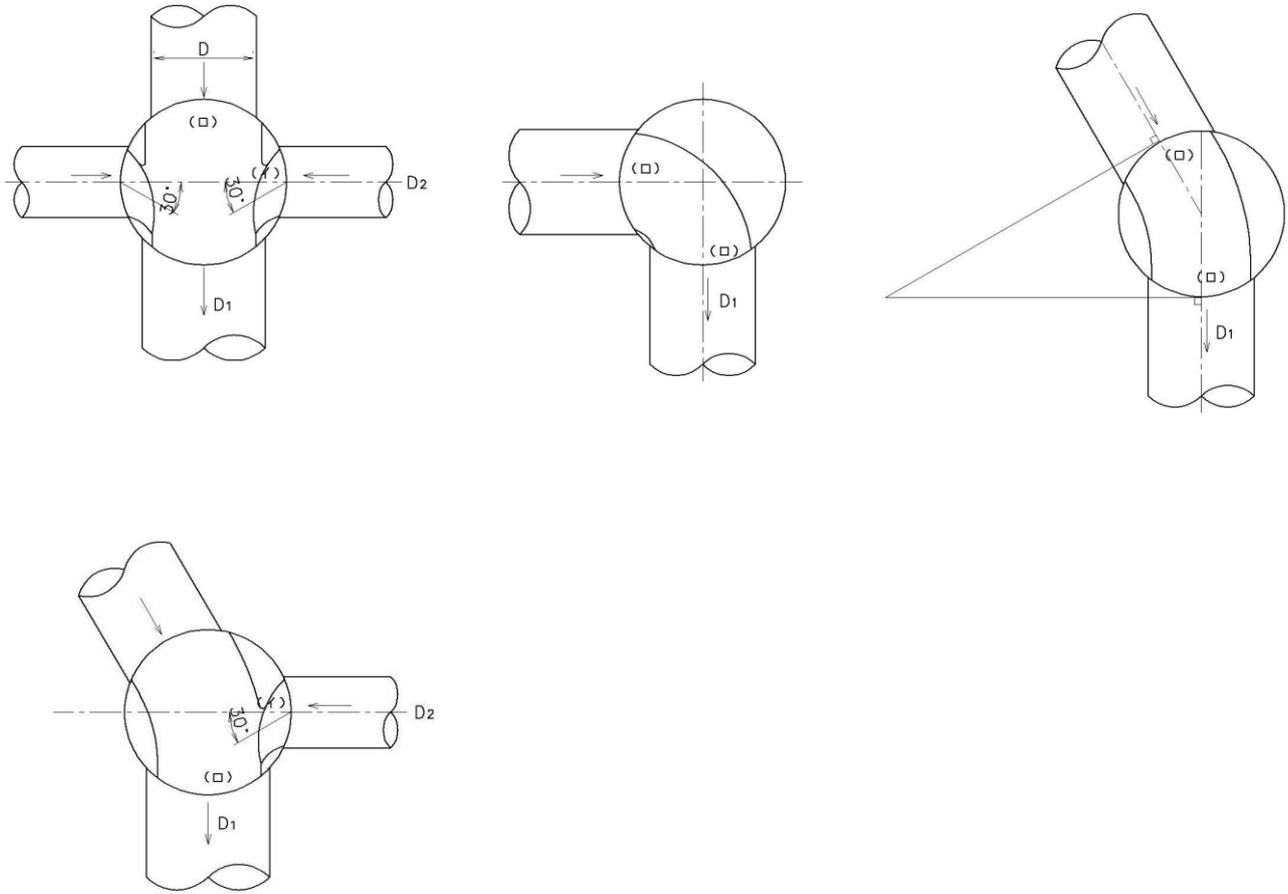
塩ビ製小型マンホール参考図 (ストレート)



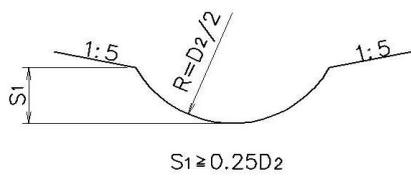
塩ビ製小型マンホール参考図 (流入位置自在)



本管会合部のインバートの形状



流入管に於けるインバート (イ)



本管に於けるインバート (ロ)

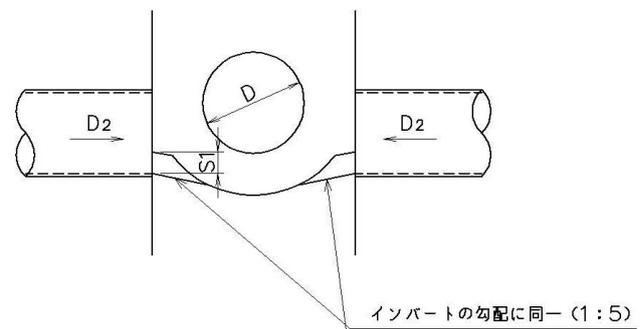
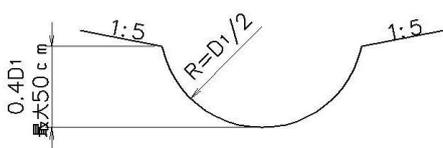
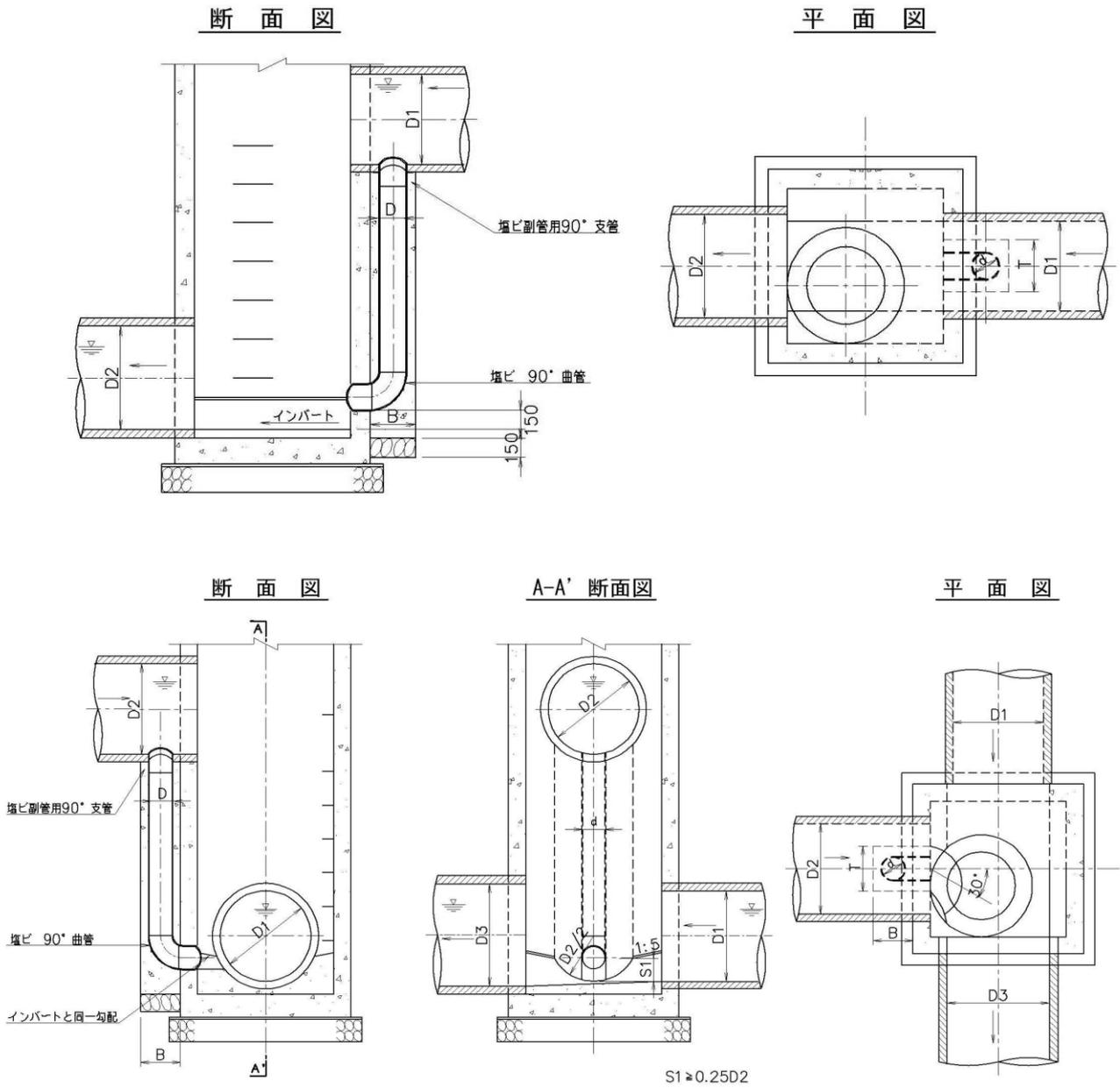


図2-32

副管付マンホール構造標準図



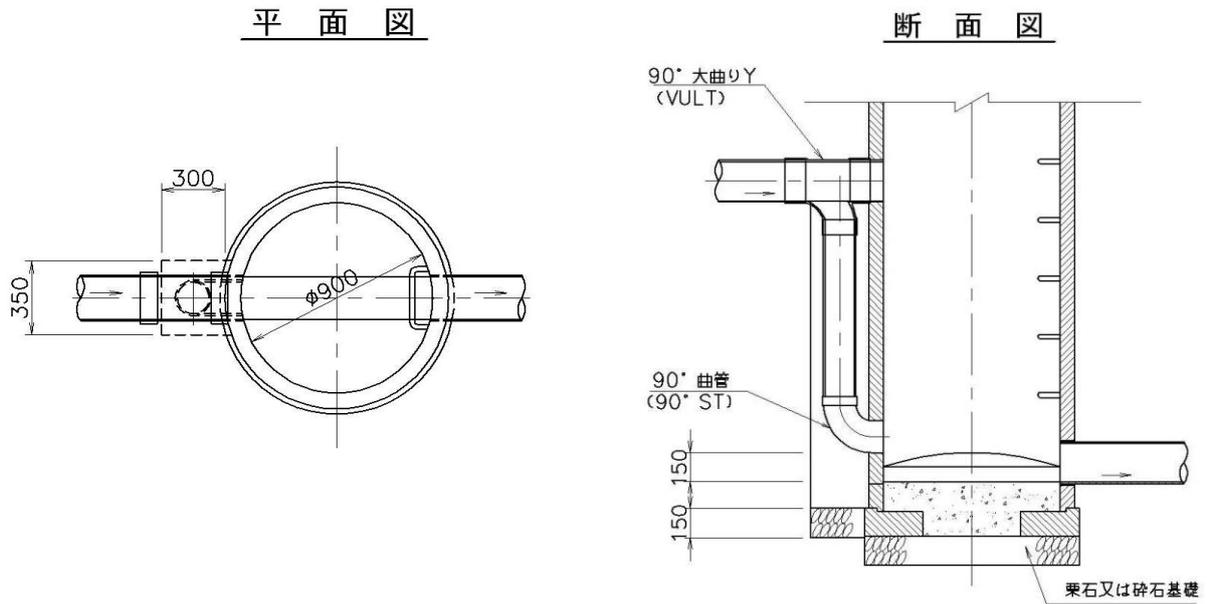
**(イ) 副管径の決め方**

	本管の内径	副管の内径
汚水管	200mm	150mm
	250~400mm	200mm
	450~500mm	250mm
	600mm	300mm
雨水管	一律	200mm

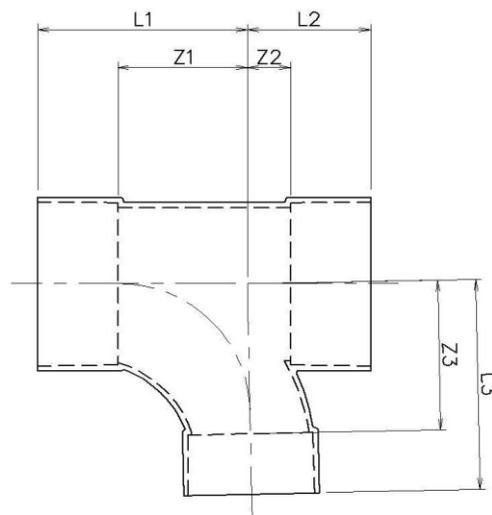
d (mm)	B (mm)	T (mm)
150	300	350
200	350	400
250	400	450
300	500	550

本管の内径が1100mm以上の場合は、階段人孔等を検討すること。

副管付マンホール構造標準図 (本管φ200 副管φ150の場合)



90°大曲りY φ200×φ150 (VULT)



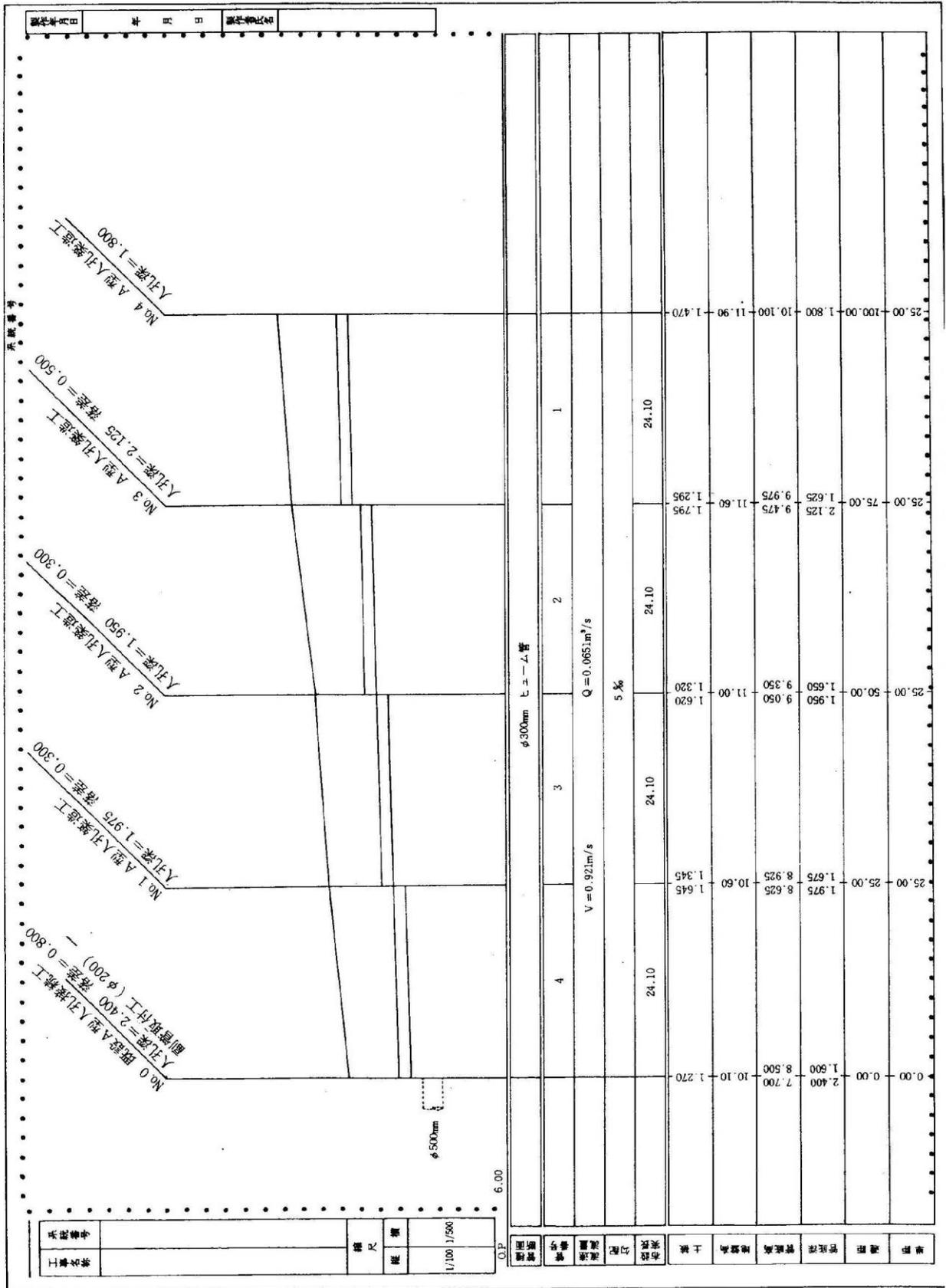
注 材料についての矢印は無視すること。

(単位mm)							
品名	サイズ	Z1	Z2	Z3	L1	L2	L3
	200x150	170	57	196	275	162	278

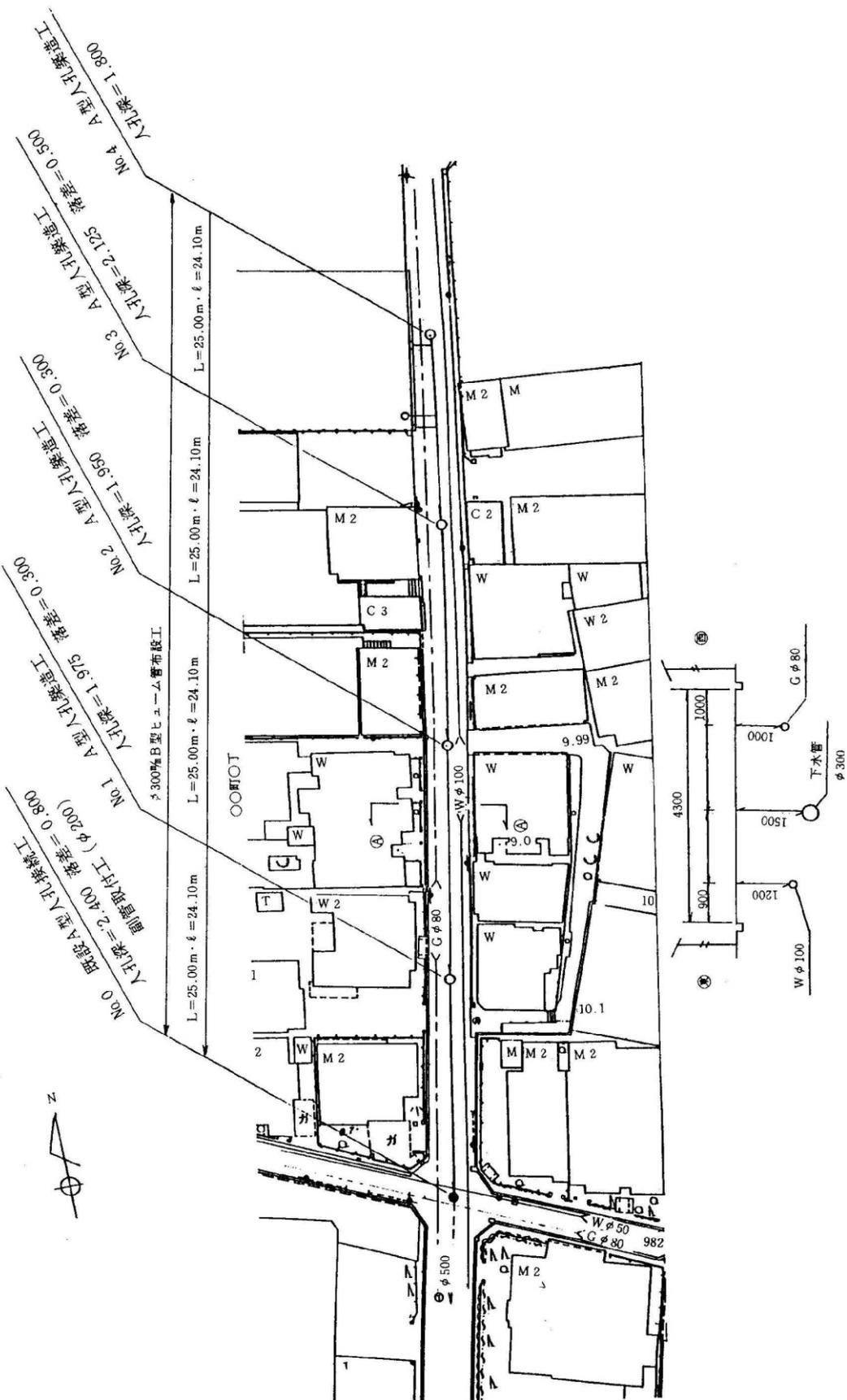
備考 Z1, Z2及びZ3の許容部は、呼び径100以下は±2mm  
呼び径150は±3mmとする。

図2-34

下水道管縦断面図



下水道計画平面図



キ. 開水路設計標準図

図2-34から図2-37に示す。

- (1) 壁高0.6メートル以下の場合  
U型トラフ (W=180~600)

図2-36

標準断面図

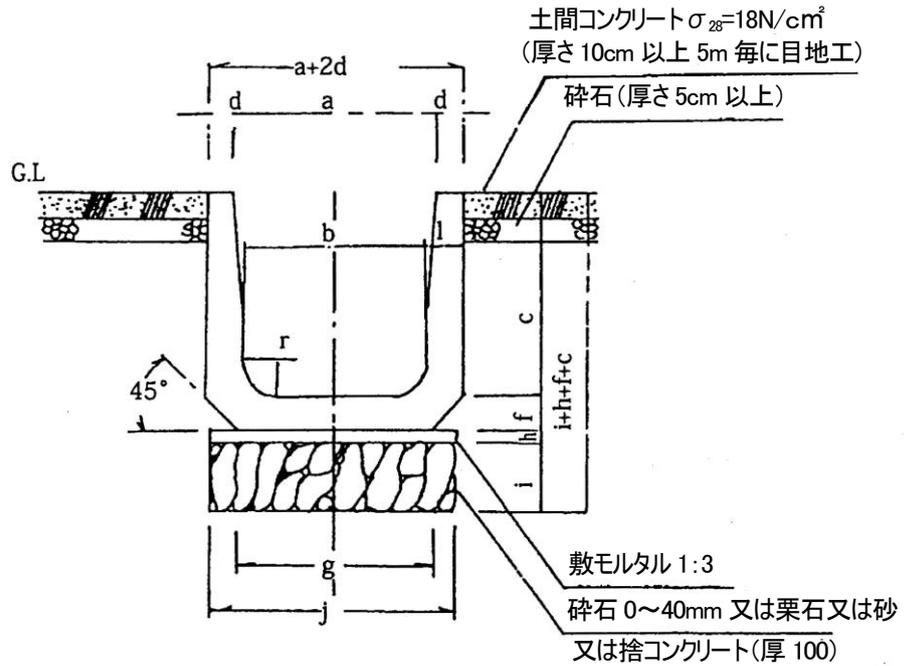


表2-15

寸法表

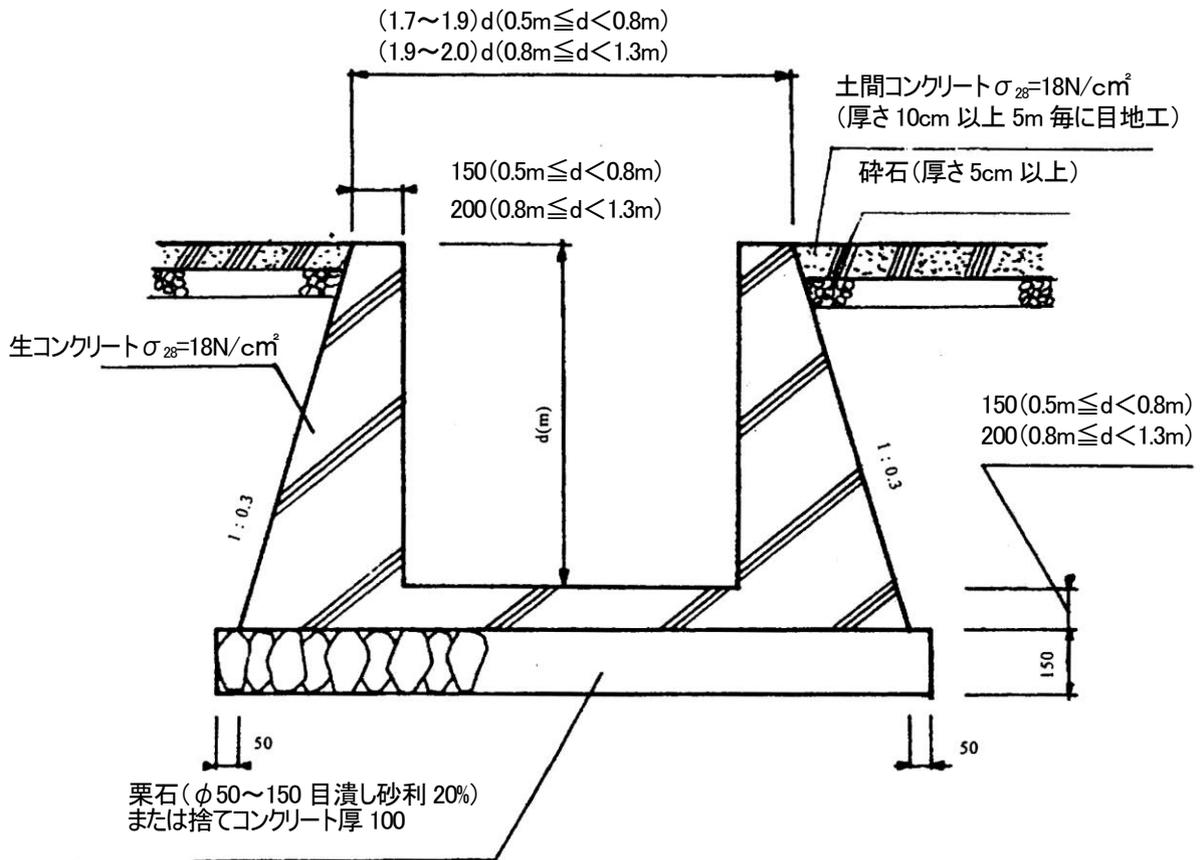
単位 (mm)

トラフ寸法	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	r	備考
180	180	170	180	35	40	40	190		100	250	50	砂砕石
240	240	220	240	45	50	50	240		100	300	50	
300	300	250	300	50	60	60	300	30	100	300	50	砕石基礎
360	360	310	360	50	65	60	360	30	100	440	50	
450	450	400	450	55	70	70	430	30	150	540	70	栗石基礎
600	600	540	600	70	80	80	600	30	150	700	70	

- (2) 壁高0.6メートル以上の場合  
 無筋コンクリート三面張水路 (ただし壁高0.6~1.3m)

図2-37

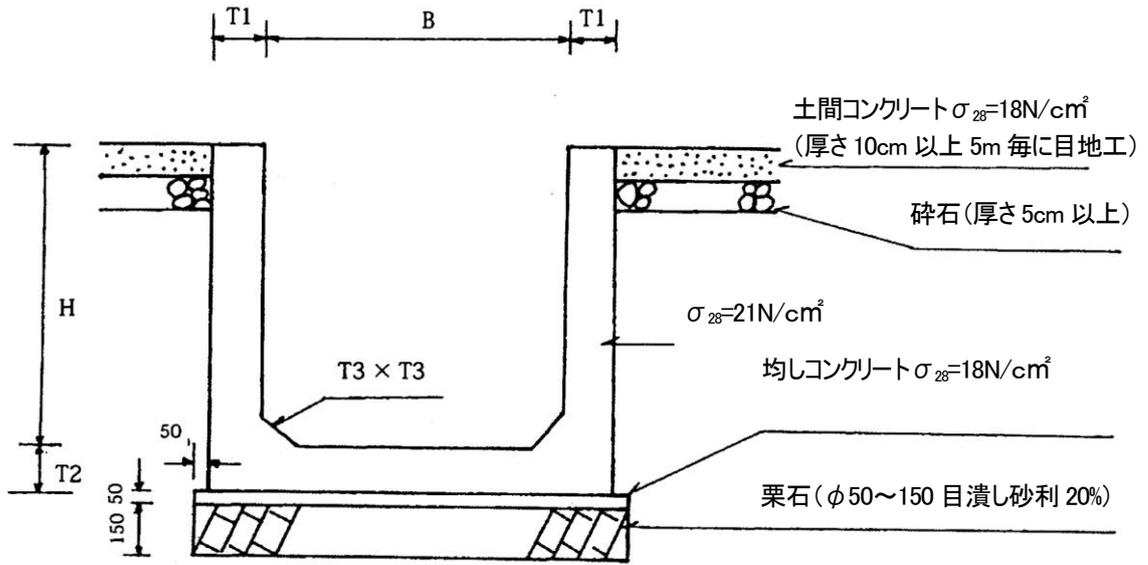
標準断面図



鉄筋コンクリート三面張水路（壁高 0.6~2.0m）  
 （壁高 2メートルを超えるものについては、別途構造計算によること。）

図 2-38

標準断面図



- 注 1) 基礎栗石を計上しない場合は、均しコンクリート厚を 100mm/m  
 注 2) 湧水の多い場合は、底版、側壁にウィープホール（20 立方メートルに 1ヶ所程度）を設ける。  
 注 3) 水路の収縮又は伸縮継手の間隔は 9メートルを標準とし、用水路の場合は、継手に止水板を入れるものとする。

表 2 - 1 6

部材寸法 (M)					配筋 (主鉄筋)		
側壁高 (H)	タイプ	側壁幅 (T1)	底版 (T2)	ハンチ (T3)	側壁 底版外側	側壁内側	底版内側
0.6 ( $B \leq 1.2$ )	I	0.13	0.13		D10 @ 250		
0.7 ( $B \leq 1.4$ )	I	0.13	0.15		D10 @ 200		
0.8 ( $B \leq 1.0$ )	I	0.13	0.15		D10 @ 200		
0.8 ( $1.0 \leq B \leq 1.6$ )	I	0.13	0.20		D13 @ 300		D13 @ 300
0.9 ( $B \leq 1.8$ )	I	0.13	0.20		D13 @ 300		D13 @ 300
1.0 ( $B \leq 2.0$ )	I	0.13	0.20	0.15	D13 @ 300		D13 @ 300
1.1 ( $B \leq 2.2$ )	I	0.15	0.20	0.15	D13 @ 300		D13 @ 300
1.2 ( $B \leq 2.4$ )	I	0.20	0.20	0.15	D13 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 300
1.3 ( $B \leq 2.6$ )	I	0.20	0.20	0.15	D13 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 300
1.4 ( $B \leq 2.8$ )	I	0.20	0.20	0.15	D13 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 300
1.5 ( $B \leq 2.6$ )	I	0.20	0.20	0.15	D13 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 300
1.6 ( $B \leq 2.6$ )	I	0.20	0.20	0.15	D13 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 300
1.6 ( $B \leq 2.6$ )	II	0.20	0.20	0.15	D16 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 300
1.7 ( $B \leq 2.4$ )	I	0.20	0.20	0.15	D16 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 300
1.7 ( $B \leq 2.4$ )	II	0.20	0.20	0.15	D13 @ 150	D13 @ 300	D13 @ 300
1.8 ( $B \leq 2.4$ )	I	0.20	0.20	0.15	D16 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 300
1.8 ( $B \leq 2.4$ )	II	0.20	0.20	0.15	D13 @ 150	D13 @ 300	D13 @ 300
1.9 ( $B \leq 2.2$ )	I	0.20	0.20	0.15	D16 @ 300	D13 @ 300	D16 @ 300
1.9 ( $B \leq 2.2$ )	II	0.20	0.20	0.15	D13 @ 150	D13 @ 300	D16 @ 300
1.9 ( $B \leq 2.2$ )	III	0.20	0.20	0.15	D19 @ 300	D13 @ 300	D16 @ 300
2.0 ( $B \leq 2.2$ )	I	0.20	0.20	0.15	D13 @ 150	D13 @ 300	D16 @ 300
2.0 ( $B \leq 2.2$ )	II	0.20	0.20	0.15	D13 @ 250 D13 @ 300	D13 @ 300	D13 @ 250

農林水産省構造改善局編集による「土地改良事業標準設計」を準拠する。

図2-35に標準断面を示す。

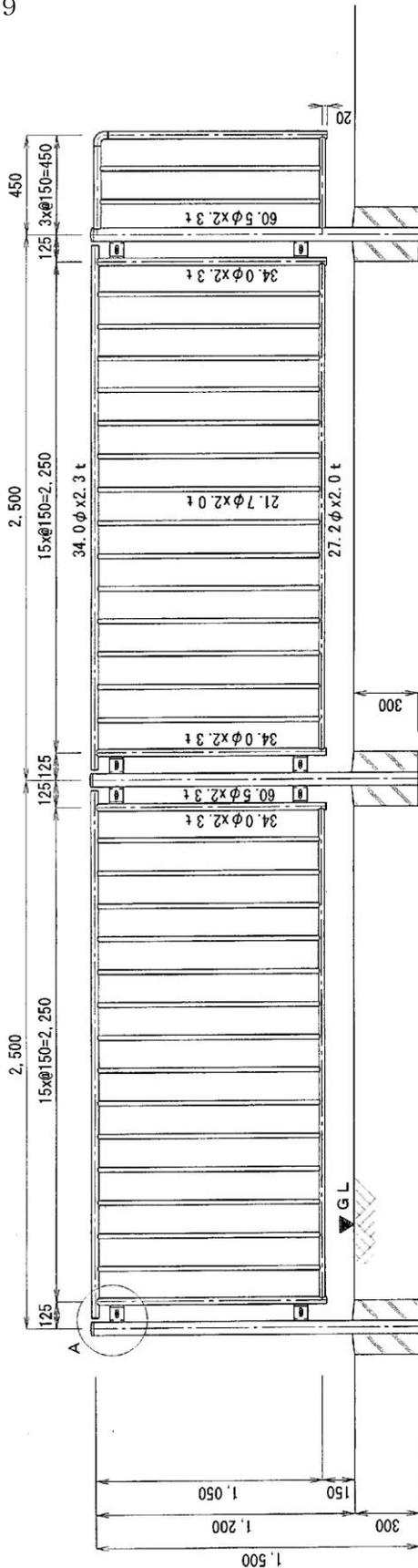
注1) タイプの選択については、水路構造物に作用する換算等分加重によるものとする。

注2) 本表以外のものについては別途構造計算によること。

注3) ハンチ筋はD13とし、配力筋はD10@300を最小とする。

図2-39

農業用施設防護柵

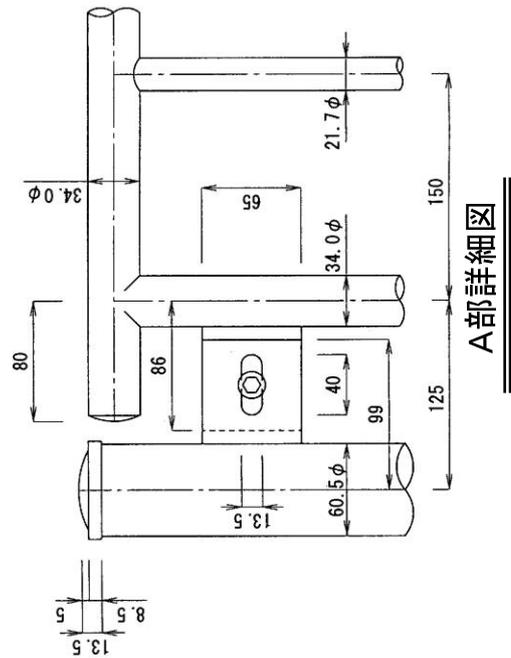


平面図

※基礎は参考とする。

使用鋼管寸法	
使用箇所	寸法
脚柱	60.5φ × 23φ
笠木	34.0φ × 23φ
横杆	27.2φ × 20φ
格子	21.7φ × 20φ

※アエムメッキ仕上げとする。



A部詳細図

## (2) 農業用水路の整備基準

### ア. 整備

- (ア) 放流先水路又は開発地に隣接する水路が未整備の場合は、原則として流域等を勘案のうえ開発による影響がおよぶ範囲まで整備すること。
- (イ) 開発地周辺のため池及び水路等の安全のため関係管理者と協議し、防護柵等の安全対策を講ずること。
- (ウ) 現況排水先以外の水路へ放出する場合は、その水路の排水能力、水質等を勘案し、下流に及ぼす影響を検討のうえ必要な処置を講ずること。
- (エ) 開発地の農業用施設及び開発地周辺の農地の用水路の処置については、関係権利者と協議のうえ開発者の責任で必要な処置を講ずること。
- (オ) 放流先水路が、ゴミ、土砂等により流水阻害されている場合は、影響範囲まで関係者によりしゅんせつ等の処置を講ずること。

### イ. 関係管理者の許可等

開発による排水に関して、土地改良区等が放流先施設の管理者と解される場合は、同意等を得ること。  
なお、放流先が施設の管理者以外の権利者に関わる場合は、権利者と協議すること。

### ウ. 協議に必要な図書

- (ア) 開発地内及び周辺に農地又は水路がある場合は用水系統図（模式図）を添付すること。
- (イ) 放流先水路の詳細図 断面、構造、勾配。
- (ウ) 放流先水路の流域図 1/2500
- (エ) その他区域内排水施設関係図面

### エ. 水路改修設計基準

水路改修の設計にあたっては、排水施設の整備基準2-(1)-イに準ずること。

### オ. 水路改修に要する設計図書

- (ア) 流域図 1/2500
- (イ) 流量計算書
- (ウ) 水路改修平面図 1/250
- (エ) 水路改修縦断面図 1/100、横 1/250
- (オ) 水路改修横断面図 1/50
- (カ) 水路改修構造図
- (キ) その他本市の指示する書類

### カ. 水路改修施設基準

#### (ア) 開水路の場合

原則として壁高0.6メートル以下では、コンクリートU型トラフ又は無筋コンクリート三面張。  
0.6～1.3メートルでは、無筋コンクリート三面張又は鉄筋コンクリート三面張。1.3メートル以上については、鉄筋コンクリート三面張とする。

#### (イ) 管水路の場合

下水道の指導基準を参考とする。

### キ. 施工基準

- (ア) 工事に当たっては、原則として、法定外公物使用等許可（工作物設置許可）を得たうえ、施工すること。
- (イ) 開発者は、施工に関する一切の責任を負うものとする。
- (ウ) 完了検査時には、次の書類を提出すること。
  - 工作物引渡書（必要に応じて出来高図面、工事写真、材料強度試験結果報告書添付のこと）
  - 関係水利団体の施工完了確認書
  - 水路敷地を市に帰属する場合、それに要する一切の書類
  - その他本市が指示する書類